

生鮮食品流通の効率化と企業経営基盤の強化を目指して

# 青果物流通の 取引電子化 導入・活用ガイド

標準商品コード・EDI標準メッセージの利用法



財団法人 食品流通構造改善促進機構

# はじめに

最近「IT」や「インターネット」ということばを目や耳にしない日がないくらい、マスコミや本、雑誌等で取り上げられています。このように「IT」等のことばの氾濫をみるまでもなく、企業や家庭内までも情報化社会の波が急速に押し寄せています。あまりにも過大な期待が高まり過ぎたためか、ITのバブルがはじけ、景気を引き下げる要因にもなった面もありますが、こういう時こそ、導入の目的と対象を明確にし、費用対効果を検討しながら、計画的に進めることが肝要です。

IT革命が真に「革命」と呼べるものであれば、数年の景気や経済動向に左右されない、超長期にわたるトレンドとなって大きな社会変革をもたらすはずですが、企業においてはITへの対応が経営的な急務となっていますが、実は長期的な取り組みが求められているのです。

改めて述べるまでもなく、情報化対応の第一歩は、自社内におけるコンピュータやLAN等のハードウェアやソフトウェア等の整備です。さらに、一步進めて取引先との間で情報化（取引の電子化）を進めるためには通信回線等の整備とともに、情報交換するために、例えば青果大根は「30120」とコード化するなどの様々なルールを決める必要があります。

しかし、このルールを個別企業毎または取引先毎に決めることは業界全体で捉えると非効率的であり費用も膨大になります。そのため、このようなルールを業界全体で「標準」化し、積極的に取引の電子化を進めようと、農林水産省の補助事業として、平成9～13年度の5ヶ年計画で「食品流通情報化基盤開発事業」(12年度までは「生鮮食品等取引電子化基盤開発事業」)が実施されています。

本書は、上記の事業等で開発された各種「標準」である

**青果標準商品コード**

**青果EDI標準メッセージ**

**青果標準アプリケーション・ソフトウェア 等**

を、企業・団体等において導入または利用して頂くために、「標準」に関する解説や導入手順・方法等を中心に、以下の3編から構成されています。各種「標準」についてさらに詳細な情報が必要な場合は、参考となる資料を紹介しています。

**基礎編**：取引電子化における「標準」の必要性や期待される効果、また各種「標準」に関する初歩的な解説

**導入編**：実際に取引電子化を行うため、各種「標準」を導入する作業手順およびその内容と留意事項

**解説編**：各種「標準コード」の詳細な解説と応用的な使用方法の解説

本書が青果業界における取引電子化の普及促進の一助となることを願って止みません。

# 目次

はじめに

## 基礎編

1. 青果物流通を取り巻く環境変化と情報システム化	2
2. 情報システム化と取引の電子化	6
3. 取引電子化の効果	8
4. 標準化の必要性とその内容	10
5. 青果標準商品コードとは	12
6. 青果EDI標準メッセージとは	14
7. 青果標準アプリケーション・ソフトウェア	18
8. EDIシステムの導入スケジュール	20
9. EDIシステム導入に必要な機器・ソフト	21

## 導入編

1. EDIシステムの導入手順	24
2. 業務改善計画の立案	25
3. システム要件の整理	27
4. データ交換方式の選定	32
5. 通信ネットワークの選定	35
6. ハードウェア/ソフトウェアの決定	37
7. アプリケーションの改造/追加	39
8. テスト・本稼動準備	40

## 解説編

1. 青果標準商品コードの全体構成	44
2. 標準品名コードと標準商品属性コードの一覧	45
3. 標準品名コード	46
4. 標準商品属性コード	48
5. EDIにおける標準商品コードの利用法	50
6. 品名コードと属性コードの関係	53
7. 生鮮JANコード	56
8. 企業・事業所コードの設定方法	61

## 巻末資料

1. 青果物の生鮮共通商品コード表	64
2. 大小基準コード表	96
3. 原産地コード表	99
4. 青果EDI標準業務運用規約	106
5. 関連資料紹介	115